2011年度　　CARA

国　語

注　意

1. 問題は全部で12ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし，マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. **HB**の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ○ を塗りつぶしなさい。○で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答がイのとき)

1	● ㋺ ㋩ ㋥ ㋭ ㋬ ㋣

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり，折り曲げたりしないこと。

一　次にあげる文章は、歌人馬場あき子の雛人形をめぐるエッセイである。よく読んで後の問に答えよ。

a 私が雛につよい関心をもつようになったのは、ある時、雛をもっていない自分に気がついてからだった。私の雛は戦争のさなかに、みちのくに疎開した祖母と、幼いいとこの手に抱かれて私のもとを去った。日々空襲に明け暮れる生活の中で、私は自分の雛を東京の家に飾る日がくるとは考えられず、焼けてしまうよりは、みちのくのわらしこになりにいくいとこの少女へのはなむけとしてあげてしまったのである。

四十歳すぎて、なぜか切に雛がほしくなった。みちのくにいる昔の雛に会いにいきたいくらいに。しかし私は、記憶の雛を記憶のままに想像しながら歌に詠んだだけで、この雛に会ってはいない。ほそ面の、切れ長な眦の静かな、ほほえみの少しさびしい印象が浮かんでくるのは、昭和初期の雛の特色なのか、あるいは、いつしか亡き母の俤がそっくりの雛のかおになってしまっているのか、その辺がよくわからない。（中略）

その頃、山形の「谷地の雛まつり」の話をしてくれたのは仙台の古い友人である。それは桃の節句に月おくれの四月二日から三日まで行われる。瓜実顔の享保雛や、衣紋正しい有職雛、古雅な紙雛などのほかにも、珍しいからくり人形のさまざま、小さい雛の調度などを保存している家々が、自宅を開放して自由に雛をみることをゆるし、たがいに雛を賞めつつ交流しあった村の[1]シュウゾクの名残で、いまに雛まつりとして大切にされているのだという。

谷地は山形盆地の最上川の西岸、河北町の小字である。近世、紅花で産をなした商人が多く居住していたといわれる谷地は、いまも落ち着いた雰囲気の町で、白壁の土蔵を残している家もまだかなりみられる。（中略）

細谷家の御当主大作氏は俳号を鳩舎とよばれる俳人である。いまもお邸とよぶにふさわしい構えの旧家で、まず門脇の大きな蔵造りの白壁が人目をひく。

母屋二間を開放していっぱいに雛段を組み、享保雛を含む三対の内裏雛の下に、さまざまな雛を自由に飾っている。左右大臣の間に酒肴を捧げた三人官女を置き、その下に五人囃子、さらに下段にお庭清めの仕丁、そしてもう一段に数々の調度を飾っ

た五段飾りの雛段も一組あったが、他の、一見寄せ集めのようにみえる雛段をみていると、その多様さにかえっていろいろな空想が湧く。

はじめて生まれた女の子のために、初節句を祝って一対の雛を求めたのは、孫がいとしくてならないような顔をした祖父や祖母であったかもしれない。それから、子供の成長にしたがって、そして家の発展のままに、楽しげな五人囃子や、都風俗を憧れさせる踊り姿の人形、芝居人形、それらの人形の包みを解きながら、父や祖父が得意になって語り伝えた土産話の数々。豊かな家の明るい灯と、女たちの笑い声――、思えば雛は、女のくらしの幸福感とともにしかなかったものだ。だから、持ち主の手を離れた雛は、女の人生の不幸を背負って流浪[2]する姿の哀れさをにじませるのだ。

細谷家には、おもしろいからくり人形が幾つもある。三味線をひく美女や、太鼓をたたく外国人など、これらがいきいきと賞[3]でられていた日を思うと、［　A　］のような気がしてくる。御主人の大作氏は気さくに小さな芥子人形を雛段からおろしてみせて下さった。象牙製である。「あっ、［　B　］」と思ってみつめると、傍らに犬・猿・雉子・鬼まで揃って、それぞれに小さな存在を主張しているようだ。

やがて雛の御膳部が運ばれる。年に一回、雛の料理を盛りつけるだけの蒔絵の椀や皿が、それぞれ色どりよく、おろそかならぬ調理の品々を盛られて足つき膳の上にうれしそうにかがやいている。[4]高坏にはお菓子の色あいも美しい。手毬（てまり）や、お将棋盤や、将棋のコマまで、御膳の傍にあるそれらは、いかにも遊び飽きた雛の手すさび[b]のようだ。

自らもうれしそうに芥子雛を弄[5]んでいられる御主人に「雛の句もおありでしょう」と御披露を請うと、一句だけ教えて下さった。

雪あかりまぶしと雛の細目かな　……鳩舎

お庭にはまだ少し雪も残っている。昔雛のやわらかな細いまなざしが、その時ふと雪をみつめてまたたいたようだ。私はさっ

きお茶を頂いたお部屋に、ドライフラワーにした紅花と並んでいた鹿児島寿蔵氏ののびやかな筆跡を思い、その歌を思い出した。

ひなの作者たれともしれず忘られて小さき衣裳のおくふかきてり　……寿蔵

寿蔵氏がここにこられたのはいつ頃だろう。歌人にしてなお人形作家として名高い氏の歌の中でも、細谷家の雛の前で目にしたこの歌は、殊さらその思いが身にしみるようだった。鹿児島寿蔵氏の人形からその名が消えることはありえないが、なるほど多くの古雛たちは、その作者を伝えてはいない。庶民の家々の雛段に並んで、あまねく女たちの愛や思いを受け入れてしまった雛たちは、すでに作者のこめた思いや愛を身に負わないでもよいくらい、持ち主の女のものになりきっている。だから雛に作名がないこともさびしくはない。私は、c私がもっていた雛の箱の蓋に、小さく記されていた私自らの名のことを思った。そして雛まつりの雛には、親の愛を得ていた日の女の子の名こそふさわしいかもしれないと思う。

外に出ると、二日の雛の市は、もう晴れ上がった空の下に、子供たちの嬉々たる声ならぬ声の交響する雑踏の中にあった。昔ながらの木蓋（きぶた）や俎板（まないた）を売る店、履物・菓子・野菜・さまざまの日用品・玩具、それらにまじって可愛い黒髪を下げた坐り人形。デパートなどでは余りみられなくなっている本当の日本人形、それも庶民の手に愛されてきた、簡潔な衣裳の、ちゃんちゃんこや、腹掛姿でちょこんと坐って、物言いたげに手をさし出している幼な髪の人形達で、それらをみていると、何ともいえない安らかな思いが湧いてくる。子供の日の心の中に閉じこめたままにしていた人形への愛が、しずかにみちのくの風土の中で目覚めていくように思えるのである。

（馬場あき子『古典余情』による）

（注）みちのくのわらしこになる――東北地方の子供になるという意味。
鹿児島寿蔵――福岡市生まれの人形作者。人間国宝。歌人としても著名。

問一　傍線部a「私が雛につよい関心をもつようになったのは」と書きだされているが、この文章の筆者が雛と関わりを深めていく経緯として、最適と思われる説明を、次にあげるア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　かつて、雪深いみちのくへと去ってしまった自分の雛が、その地方のとても寒い冬を越せるかどうか、心配になっていった。

イ　作者は幼い頃に母を亡くしているので、雛人形の中でも母に似た表情をする女の雛について、抑えられない関心が湧いてきた。

ウ　戦争によって作者は大切な雛を失ってしまったので、戦争を憎む気持ちが次第に高まると同時に雛を思う気持ちが高まっていった。

エ　歌人である作者は、自分の持っていた雛を思い出してそれを短歌に詠んでみたが、あまりうまく詠めず、悔いが残ってしまった。

オ　かつて自分の雛が、自分の手を離れて流離の身となってしまった意味を知り、封印されていた自身の人形への愛に気づいていった。

問二　二重傍線部1「シュウゾク」を漢字に直せ。

問三　二重傍線部2「流浪」の漢字の読みをひらがなで記せ。

問四　二重傍線部3「賞でられて」の漢字部分の読みとして最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　な　　イ　たたえ　　ウ　かな　　エ　め　　オ　しょう

問五　空欄［　A　］に入る語句として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　何とも楽しい春の夢
イ　にぎやかで落ち着かない夏の夢
ウ　とてもめずらしい秋の夢
エ　どこかもの悲しい冬の夢
オ　季節のはっきりしない古ぼけた夢

問六　空欄［　B　］に入る語句として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　舌切り雀
イ　花咲かじいさん
ウ　さるかに合戦
エ　金太郎
オ　桃太郎

問七　二重傍線部4「高坏」の漢字の読みとして最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　たかつき　　イ　たかはい　　ウ　こうはい　　エ　こうばい　　オ　たかさか

問八　傍線部b「手すさび」の意味として最適な説明を次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　手間ひま　　イ　手なぐさみ　　ウ　手もちぶさた　　エ　手つだい　　オ　手編み

問九　二重傍線部5「弄んで」の漢字部分の読みとして最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　ひる　　イ　さげす　　ウ　もてあそ　　エ　はら　　オ　よろこ

問十　「雪あかりまぶしと雛の細目かな」の俳句から、この文章の筆者は何を感じ取ったのか。最適と思われる説明を次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　雛の料理のおろそかならぬ品々の美しさ
イ　家を離れる女の人生の不幸の予兆
ウ　初節句を祝う祖父母たちのよろこび
エ　北国に住むものの都の生活へのあこがれ
オ　北国に住む女のくらしの幸福感

問十一　「ひなの作者たれともしれず忘られて小さき衣裳のおくふかきてり」の短歌で、結句の「おくふかきてり」を漢字を用いて書きなおすとどうなるか。次のア～オから最適なものを選び、記号をマークせよ。

ア　奥深来てり　イ　置く深き衿　ウ　屋深き栄り　エ　奥府掻きてり　オ　奥深き照り

問十二　傍線部c「私がもっていた雛の箱の蓋に、小さく記されていた私自らの名のことを思った」とあるが、それはなぜか。次のア～オから最適な説明を選び、記号をマークせよ。

ア　箱には、もっと大きく自分の名前を書いてくれればいいのにと、昔から残念に感じていたので、その悔いを急に思い出したから。
イ　雛の箱に記されていた自分の名前は、雛の作者に代わって雛を愛した自分の証であり、また親に愛された自分の幸福の証でもあるから。
ウ　雛人形の作者の名前ではなく、自分の名前を蓋に記したことは、なにか人形作者に対する冒瀆のように思われたから。
エ　名前を記したのは自分ではなく父母であったのだが、わざわざ名を書いてくれた父母への感謝が足りなかったことに気づいたから。
オ　名前を大きく蓋に記しては、人形が次の持ち主の手に渡ったとき不都合が生じるので、なるべく小さく記すべきであることに気づいたから。

問十三　この文章で、筆者は何を言おうとしているのか。最適な説明を次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　多くの古雛はその作者がわからず、名もないが、持ち主の女に愛され、女のものになりきっているとき、雛にはその持ち主の名前がふさわしい。

イ　雛祭りにおいては、親の愛を得ていた日の女の子の名に並べるかたちで、もちろん雛を作った作者の名前も、いつも思い返すべきなのである。

ウ　数々の雛人形が並ぶ旧家の雛壇を見ていると、女の暮らしの幸福感が伝わってくるのだが、しかしどこかで流浪する雛にもまた幸せはある。

エ　細谷家には人形作家で歌人の鹿児島寿蔵氏の自筆の歌が掲げてあるが、古い雛にはこのように作者の歌が添えられるのが普通なのである。

オ　雛人形はその作者の名も持ち主の名もすぐに忘れられてしまうものだが、それは雛人形に対する愛がどこかで足りないからなのである。

二　次の文章は、明治四十三年に書かれた幸田露伴の「分福の説」の一節である。これを読んで後の問に答えよ。

福を惜しむ[1]ということの重んずべきと同様に、福を分かつということもまた甚だ重んずべきことである。分福とはどういうことであるかというに、自己の得るところの福を他人に分かち与うるをいうのである。たとえば自己が大なる西瓜を得たとすると、その全顆を飽食し尽くすことをせずしてその幾分を残し留むるのは惜福である。その幾分を他人に分かち与えて自己と共にその美を味わうの幸いを得せしむるのは分福である。またたとえば自己が一の小なる蜜柑を得たる時に、自己一個にしてこれを食い尽くすもなおその足らざるを覚ゆる如き場合にも、その半顆を傍人に頒ち与うるは即ち分福である。すべて自己の享受し得る幸福の幾分を割いてこれを他人に頒ち与え、他人をして自己と同様の幸福をば、少分にもせよ享受するを得せしむるのは分福というのである。惜福は自己の福を取り尽くさず用い尽くさざるをいい、分福は自己の福を他人に分かち加うるを言うので、二者は実に相異なり、また互いに表裏[2]をなして居るのである。惜福は自ら抑損するので、分福は他に頒与するところあるのであるから、彼は消極的、此は積極的である。

もしただ一時の論や眼前の観から言えば、惜福は自己の幸福を十分に獲得捕捉せずして、その幾分を未来もしくは運命というが如きものに委ねて、預け置き積み置くをいい、分福はまた自己の幸福を十分に使用享受せずして、その幾分をただちに他人に頒ち与うるをいうのであるから、自己の幸福を自己が十分に享受し使用せぬところは二者全く相同じであって、そして双方共に自己に取っては差し当たり利益を減損し、不利益を受けて居るようなものである。しかし惜福ということが間接に大利益をなして、能く福を惜しむものをして福運の来訪に接せしむるが如く、分福ということもまた間接に、その福を分かつところの人をして福運の来訪に接すること多からしむるのは、世の実例[3]の示していることである。

一瓶の佳酒があると仮定する。これを自己一人にて飲み尽くせば酔いを得るに足り、他人と共にこれを飲めば自他共に酔いを得るに足らずという場合に際して、自己一個にてこれを飲み尽くして同座の人に頒ち与えざるのは、福を専らにするのである。自分の酒量にはちと過ぐるほどなるにもかかわらずこれを飲み尽くしてしまうのは、福を惜しまぬのである。他人と共にこれを

飲めばただ僅かに口に麹香を留むるのみなるにもかかわらず、自己のみにてこれを飲むには堪えずして他人と共にこれを飲むというのは、福を分かつのである。

一瓶の酒、我を酔わしむるに足らざるも人にその味わいを分かち、半鼎の肉、我を飽かしむるに足らざるも人にその肉を薦む[4]る、是の如き分福の挙動は、実に人の餓狗たらず貪狼たらざるところを現わすのであって、ただに幸福を得るの道として論ずべき一個条といわんよりは、人としての高貴の情懐の発現というべきである。

一瓶の酒、半鼎の肉、これを頒つも頒たざるももとより些細の事である。しかしその一瓶の酒を頒ち与えられ半鼎の肉を頒ち与えられた人は、これによって非常に甘美なる感情を惹起されるのであって、その感情のショウドウされた結果として生ずる影響は決して些細なものではない。甚大甚深のものなのである。古の名将の伝記をひもといたならば、士卒に福を分かち恵を贈らんがために古名将らがいかに［A］の処置を取ったかが窺われるのであるが、これに反して愚将弱卒らはつねに分福の工夫に欠けた［B］の行為をなすものである。酒少なく人多き時に酒を河水に投じて衆と共に飲んだ将があるが、是の如きはいわゆる分福の一事を極端に遂行したのであって、流水に酒を委したとて誰をも酔わすに足らないのは知れきった事であるが、それでもなおかつ自己一人にて福を専らにするに忍びないで、これを他人に頒とうとする情懐は、実に仁慈寛洪の徳に富んでいるものである。されればその時に当たって流水に掬してこれを飲んだものは、もとより酒には酔うべくもないのではあるが、しかもその不可言の恩愛には酔わざるを得ないのである。是の如く下を愛する将に対しては、下もまた身を献じてその用を為さんとするのである。およそ人の上となりて衆を帥いるものは、必ず分福の工夫において徹底するところあるものでなければならぬ。人いやしくも真に福を分かつの心を抱けば、その分かつところの福は実際尠少にして言うに足らざるにせよ、その福を享受した[6]る人は非常に好感情を抱くものである。

惜福の工夫と分福の工夫とを兼ね能くするに至っては、その人実に既に福人たりというべきであるが、世の実際を観るに、能く福を惜しむの人は多くは福を分かたず、能く福を分かつの人は多くは能く福を惜しまざるの傾きがあるのは、歎ずべく惜しむべきである。福を惜しむの工夫をもなさざるの人は、人の下として人に愛重さるべき人でなく、福を分かつの工夫に乏しき人

は、人の上として帰依信頼さるべき人でない。人いやしくも人の下として漸[7]くに身を立てんとしたならば、必ず福を惜しまねばならぬ。福を惜しまざれば、福の積もり累なるところなくしてその人は長く無福の境界[8]に居らねばならぬのである。福を分かたざれば、その人は長くただ自己一個の手脚を以て福を獲得するのみの小境界に止まり、他人[9]の手脚よりは何らの福祉をも得ざるに終わるべき理があるのである。

（注）鼎――調理用の鍋のこと。
掬する――手ですくうこと。

問一　傍線部1「福を惜しむ」とはどういう意味か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　自分一人で福を使い切ることは心苦しいので、他人と互いの福を分かち合うこと。
イ　自分が受ける福の一部を、今後のことを考えて残しておくこと。
ウ　自分の福を無駄遣いすることを避けて、他人の福を分けてもらうこと。
エ　福を残しておくともったいないので、現在の楽しみのために使い切ること。
オ　福を得るための努力を惜しんで、福が来るのを何もせずに待つこと。

問二　傍線部2「表裏をなして居る」とあるが、どうしてか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　福を自分ひとりのために使う惜福の消極性と、他人のためにすべてを使い切る分福の積極性とは相反するから。
イ　当面の福を蓄積しようとする惜福と、福を今以上に獲得しようとする分福とは相通ずるものがあるから。
ウ　惜福と分福は、将来の福運のために当面の福をあえて留保しないで消費する点において共通するから。
エ　福の無駄遣いを控えようとする惜福の消極性と、福を浪費する分福の積極性とは相反するから。
オ　惜福と分福は、当面の自分の福を使い切らない点と、その結果、将来の福運に恵まれる点において共通するから。

問三　傍線部3「世の実例」のうち分福の例として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　賞与の一部を割いて宝くじを買うことで、当選すれば賞金を得られる。

イ　子供が自ら進んで両親の手伝いをして、ご褒美にお小遣いをもらう。

ウ　死後、全財産を福祉団体に寄付することで、名が後世に伝わる。

エ　店主が特別手当を支給することで店員の勤労意欲が高まり増収につながる。

オ　貯金を下ろして株を購入し、それを売買することで利益を得る。

問四　傍線部4「人としての高貴の情懐」とあるが、どういう点において「高貴」であると言えるか。本文中からその説明として最適な箇所を、十二字(句読点を含む)で抜き出せ。

問五　傍線部5「ショウドウ」を漢字に直すとどうなるか。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　称道　　イ　唱道　　ウ　聖道　　エ　小堂　　オ　衝動

問六　空欄 A に入れる言葉として最適なものはどれか。次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　臨機　　イ　必至　　ウ　最悪　　エ　狭量　　オ　甘美

問七　空欄 B には「物惜しみをする」という意味の言葉が入る。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　寛大　　イ　厳格　　ウ　鄙吝(ひりん)　　エ　広量　　オ　浪費

問八　傍線部6「不可言の恩愛」とはどういう意味か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　言葉ではなく行動でのみ示される恩愛の情

イ　言葉にせず心の内に秘めるべき恩愛の情

ウ　言葉では言い表せないほどの恩愛の情

エ　あえて言葉にしなくてはならない恩愛の情

オ　言葉にしなくとも自然と伝わる恩愛の情

問九　傍線部7「漸く」の読みを、ひらがなで記せ。

問十　傍線部8「境界」とは、この場合どういう意味か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　境目　　イ　世界　　ウ　身体　　エ　境遇　　オ　彼岸

問十一　傍線部9「他人の手脚よりは何らの福祉をも得ざる」とはどういう意味か。最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　他人と関わって幸福と感じることがない。

イ　他人から感謝されることがない。

ウ　他人から信頼を得ることができない。

エ　社会福祉の恩恵を受けることができない。

オ　他人から幸福を授けられることがない。

問十二　本文の内容と合致する説明として最適なものを次のア～オから選び、記号をマークせよ。

ア　どんなに少ない福だとしても、福を分けてもらった人は、福を分けてくれた人に対して好印象を抱くものである。

イ　少しの酒をひとりで味わうことを拒み、酒を川に捨て兵とともに我慢した名将がいるが、これは惜福といえる。

ウ　人は誰しも福を独り占めせず、他人と分かちあうが、それこそ人が動物とは違うゆえんである。

エ　人はもし分不相応であっても、人の上に立つ人物になろうと志すならば、必ず福を惜しまなければならない。

オ　分福も惜福もどちらも、当面の福をすべて放棄した結果、将来の福運に恵まれることが多い点で共通する。